

週刊  
**新社会**

**1月1日**



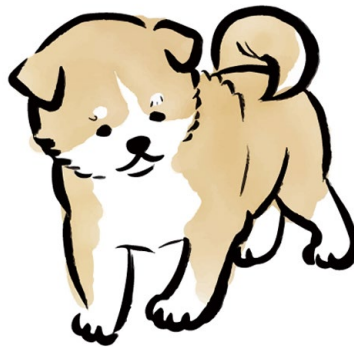
2018年号外  
野田市版

振替 00140-0-149727 1ヵ月 600円 1部 164円 1部 150円 41円  
発行所：新社会党 <http://www.sinsyakai.or.jp/>  
E-mail/honbu@sinsyakai.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3F Tel. 03-6380-9960 Fax. 03-6380-9963

今年もよろしく  
お願いいたします

謹賀新年



市民のために競い合い、協力し合う議会そして市政を

2018年元旦



春を待つヒメコブシの花芽

## 庁内改革待ったなし

市長が変わって1年半。ある市民グループから言われるまでもなく、議会答弁は鈴木市長も頑張っているが、ほぼ副市長がリードしている。問題は管理職が判断を誰かに任せるという姿勢だ。

おそらく政清会もそのような問題意識を持っているのだろう。12月議会で、ある政清会議員から柳川市の「部課長1分間スピーチブログについて」という提起があった。

柳川市のホームページによると、「柳川市役所の幹部職員たちが、行政情報や担当業務、市の魅力などを語るコーナー」「更新は週1回の予定」。いずれのメッセージも顔写真付きで語りかけている。当然そのメッセージには責任が伴う。

ちょっとスタイルは異なるが、だ

いぶ前から流山市のホームページには「これをやります！部長の仕事」というコーナーがある。

これも顔写真付きで、「それぞれの部の課題と取り組みなど、自らのマネジメントをお伝えするほか、ホットな話題などを、自らの言葉で分かりやすく紹介し」ている。

これまで野田市は市長だけが表に出ていた。その弊害が表面化している今こそ庁内改革のチャンスだ。

かつて仕事に対する職員の情熱についておさなみ議員が提起したが、答弁はチームとして取り組んでいるというもの。ところが、現実には担当者がいませんと言われることがしばしばだと、市民から苦情が届く。庁内改革は待ったなしだ。